

鶏肉情勢

平成30年11月5日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容	
1. 国内	<p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会10月下旬実施)によると、9月の推計実績は、処理羽数54,376千羽(前年同月比98.7%)・処理重量158.4千ト(同97.0%)となった。前月時点の計画で曜日回りの関係による稼働日減少の影響で、処理羽数同99.5%、処理重量同98.3%と見込んでいたが、残暑・台風・地震等による影響も加わり出荷羽数・体重が下振れする結果となった。地区別では、南九州地区が比較的順調(同99.0%)であったものの、台風の影響等で中部、近畿・中国・四国地区(同95.3~95.5%)、地震の影響等で北海道・東北地区(同95.3%)の落ち込みが大きかった。</p> <p>(2) 10-12月で、10月は出荷羽数の増加により処理羽数(前年比102.6%)・重量(同101.3%)ともに前年を上回る計画、11月についても処理羽数(同102.2%)・重量(同100.8%)ともに上回る計画であるが、南九州地区のみ重量が同98.9%と前年割れとなっている。また、12月については最需要期にも関わらず処理重量が同98.5%と計画され、特に南九州地区が落ち込むため(同97.1%)、在庫はあるというものの年末商戦への影響が懸念されるところである。</p>	
2. 輸入	<p>(1) 財務省10月30日発表の貿易統計によると9月の鶏肉(原料肉)輸入量は40.3千トと、在庫過多による調整含み等もあり前年同月(55.4千ト)より大幅に下回った。しかし、1-9月累計では415.8千ト(前年比101.9%)と依然前年を上回っている。国別では、ブラジルが27.3千ト(前年比66.9%:丸鶏含む)、タイも11.0千ト(同91.0%)と主要2国で大幅減となった。輸出入協会では10月48.7千ト(同84.2%)・11月47.4千ト(同83.1%)と予測しており、「10月現在、タイ産は数量・価格とも堅調に推移。ブラジル産は依然として現地積出数量が不透明で、価格も軟調。非常に先が読みづらい状況が続く見込み」とコメントしている。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の9月輸入量は前月より94.9千ト減少の38.2千ト(前年比96.4%)で、最も輸入量が多いタイが前年より1割減少したものの、1-9月累計では367.1千ト(同105.0%)となっており、依然潤沢な在庫状況と考えられる。今後も、唐揚げ・サラダチキンや串物等コンビニ・惣菜売り場向けの輸入は継続すると考えられるが、今後は2022年に完全施行される原料原産地表示の影響や今年12月30日発効のTPPへのタイの参加がどうなるか等、注視が必要と思われる。</p>	
需 要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、8月は猛暑や台風接近等が影響したためか全国一世帯当たりの生鮮肉消費(購入)数量3,771g(前年比99.2%)・金額5,904円(同98.2%)とともに前年を下回った。牛肉が数量を落とすなか、豚肉・鶏肉は伸びたが、うち鶏肉については、数量がむね肉等の需要拡大で1,285g(同107.2%)と前年を大きく上回ったものの、金額では単価安もあり1,163円(同98.6%)と前年を下回った。
	2. 量販・卸	(1) スーパー3団体によると「9月の畜産部門の売上高はバネレ270社全店ベースで売上1,021億円で前年比1.7%増となった。土日が1回多い曜日回りも追い風に、牛肉は相場高騰が続くなかステーキ用などを中心に好調となった店舗も見られる一方で、伸び悩んだ店舗も見られた。豚肉は国産・輸入ともに好不調の判断が分かれ、鶏肉は相場が下落傾向にあり単価下落により苦戦した店舗が多いが、サラダチキンや鍋需要により善戦した店舗も見られた。また、近隣店舗との価格競争を指摘するコメントや、加工肉は引き続き不振とするコメントが多くみられた。」との報告であった。
	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる8月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比97.5%の4.34千ト。うち国内物は同92.8%の3.53千トと下回ったものの輸入物が同125.2%の0.81千トと報告された。輸入物は1-8月累計でも同140.1%と大幅に増加しているものの、全体の18.1%となっている。サラダチキン向け等の需要が堅調であるなか輸入物の比率は着実に伸びているが、国産むね肉価格が比較的低位で安定しているため加工向け数量のアップに期待したい。
在 庫	1. 30年8月	(1) 推計期末在庫は国産28.9千ト(前年比107.0%)、輸入品140.1千ト(同107.0%)と合計で169.0千ト(同107.0%)、前月比で約1.0千ト増加となった。国内生産量が前月対比で3.0千ト減少したものの、輸入量が同5.1千ト増加したことに加え猛暑等で売れ行きが低調だったこと等が要因と考えられる。尚、推定出荷量は、輸入品が前月比7.3千ト増加の50.2千トで国産は同4.2千ト減少の124.7千トとなった。
	2. 見通し	<p>(1) 9月は国内生産量が前月比でほぼ横ばいの推移で、輸入量も約10千ト減少。安い輸入チルドポークの出回りや残暑・台風の影響等もあり依然として需要は弱含みと考えられ、出荷量も減少するものと思われる。よって、在庫は引き続き高水準で推移すると考えられる。</p> <p>(2) (独)農畜産業振興機構の需給予測では、10月は前月比で生産量が14.5千ト増加し、輸入量もブラジル中心に1.3千ト増加するものの、出回りが8.6千ト増加することにより、国産・輸入品合計で1.1千ト増加の163.9千ト。11月は生産量が2.1千ト減少し、輸入量もブラジル中心に1.3千ト減少し、出回りが2.3千ト増加することにより、期末在庫は4.6千ト減少の159.3千ト(前年比89.4%)とされている。輸入チルドポーク等の輸入も相変わらず潤沢で、鍋物需要等で国産・輸入品問わず鶏肉需要拡大に期待したい。</p>
相 場	1. 10月動向	(1) 10月の平均相場は、もも肉570円/kg(前月比20円上げ)・むね肉270円/kg(同5円上げ)、正肉合計で840円/kgと前月比25円上げも、前年比では65円の下げとなった。気温の低下にともない、もも肉は月なかで一時的な下げも上げ基調は変わらず月末581円を記録し次月への弾みとなった。むね肉は、サラダチキン・鶏チャーシュー等の需要で堅調に推移しており月初267円・月末270円と保合い圏内となった。
	2. 11月見通	(1) この冬の気温は平年よりやや高めとの予測であることや、台風の影響等で葉物野菜が高値で推移していること等から鍋物需要への影響が心配される。しかし、前日との寒暖差が大きい日等の増加が見込まれるため、もも肉は鍋物等の利用頻度増加で月平均590円、むね肉も引き続きサラダチキン・鶏チャーシュー等の需要が堅調のため月平均270円の保合いと予測する。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	H30年9月推計実績		H30年累計		H30年10月計画		H30年11月計画		H30年12月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	62,078	97.2%	545,805	101.4%	68,424	103.4%	60,856	101.1%	64,826	99.9%
処理羽数	54,376	98.7%	512,007	102.2%	60,518	102.6%	59,346	102.2%	64,219	100.4%
処理重量	158.4	97.0%	1,518.5	101.7%	179.2	101.3%	176.8	100.8%	191.0	98.5%

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMIN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年		前年比
H30年6月	43.9	50.2	87.4	41.1	44.0	93.3	85.0	94.3	90.2	51.6	48.4
H30年7月	45.7	40.8	112.1	45.9	42.6	107.7	91.6	83.4	109.9	49.9	50.1
H30年8月	50.8	52.0	97.6	43.1	43.7	98.5	93.9	95.8	98.0	54.1	45.9
H30年9月	40.3	55.4	72.7	38.2	39.6	96.4	78.4	95.0	82.6	51.3	48.7
H30年累計	415.8	408.1	101.9	367.1	349.7	105.0	782.8	757.8	103.3	53.1	46.9

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
H30年6月	1,366	1,279	106.8	1,231	1,232	99.9
H30年7月	1,294	1,209	107.0	1,194	1,184	100.8
H30年8月	1,285	1,199	107.2	1,163	1,180	98.6
H30年平均	1,349	1,304	103.5	1,275	1,254	101.7

※参考資料:総務省統計局HP

相場(年別・暦年) 単位:円

履歴	もも肉	むね肉	計
H24年	563	189	752
H25年	583	246	829
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941

在庫状況 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
H30年5月	30.7	25.9	118.5	142.3	116.5	122.2	173.0	142.4	121.5
H30年6月	29.3	26.9	108.8	136.8	124.1	110.2	166.0	151.0	109.9
H30年7月	28.5	25.6	111.3	139.5	122.1	114.2	168.0	147.7	113.7
H30年8月	28.9	27.0	107.0	140.1	130.8	107.0	169.0	157.9	107.0

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別) 単位:円、%

品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年
H30年7月	548	587	93.4	265	328	80.8	813	915	88.9
H30年8月	539	563	95.7	263	323	81.4	802	886	90.5
H30年9月	550	560	98.2	265	324	81.8	815	884	92.2
H30年10月	570	583	97.8	270	322	83.9	840	905	92.8
H30年11月	(590)	605	97.5	(270)	319	84.6	(860)	924	93.1
H30年12月	(620)	644	96.3	(270)	318	84.9	(890)	962	92.5
H30年平均	594	626	94.9	283	315	89.8	877	941	93.2

※()は見通し
※1-10月平均